

かけはし

もりよし荘だより

NO. 9

平成27年4月1日

編集・発行

〒018-4301

秋田県北秋田市米内沢字七曲25番地

(社会福祉法人 交楽会)

介護老人保健施設 もりよし荘

TEL. 0186-72-5030 FAX. 0186-72-5017

<http://www.akita-kouraku.jp/>



雪が消え屋外へ散歩中、さくらの木を見上げ、春が近づいているのを感じていた。

春気分の桃の節句

思い出話に花を咲かせ



飾られたひな壇を眺める利用者

もりよし荘では例年より遅く雛人形の飾り付けが行われた。待ちわびている女性陣からは「散り際の花が沢山居るからって…」と皮肉を込めた言葉が出るくらい雛人形を楽しみにしてくれている様子だった。

「昔は貧乏で雛人形なんて買ってもらえなかった。食べる事に精一杯で…」と話す方や「ひし餅は食紅を入れて作ったものだ。アラレも揚げたんだよ。小麦粉を入れるとふんわりするのを知っているか？」と雛人形を前に思い出話に花を咲かせていた。

男性利用者は「旨いものを食べられる日」と笑って話され、昼食やおやつを頼張っていた。

元気に豆まき 鬼は外・福は内

〈邪気退散〉

毎年恒例の行事となつている節分の豆まきが、2月3日に行なわれた。全ユニットで邪気を払い皆の健康を祈り豆まきをした。大きな顔の鬼のめがけ、「鬼は外、福は内」と元気よく笑顔で豆をまいた。利用者は、「みんなで豆まきして体の悪いところ追い出したから、みんなますます元気になってしまふな」と笑顔で話していた。



鬼の面に豆を投げる利用者

なまはげ太鼓

12月3日、比内養護学校の鷹巣分校体育館で、なまはげ太鼓の鑑賞会があった。見事なバチさばきに、見学



圧倒されたバチさばき

に行つた利用者の皆さんも圧倒されて目を大きくしながら見ていた。



なまはげ太鼓を叩く利用者

昔を懐かしむ

11月17日リハビリ主催の「昔を思い出し皆でごはんを作る会」が行われた。当日は少し寒い日でしたが、屋外に薪ストーブとつば釜



薪ストーブでごはんを炊く

を設置し、サンマを焼き、豚汁を作った。つば釜からの湯気の香り、おこげなど普段目にする機会がない利用者には、目と鼻と舌で昔を懐かしながら食事した。またやりたいと好評だった。

豚汁を作る利用者

12月24日クリスマス会が行われた。全国的に流行している感染症の予防の為に各ユニットにサンタクロースが回り、職員が扮したちよつぱり太目のサンタクロースや、眼鏡をかけたトナカイ達が利用者一人ひとりにプレゼントを手渡して歩いた。プレゼントを受け取った利用者は「なんだべが、ありがとう」と受け取って、すぐに中身を確認する利用者もいた。サンタクロース



眼鏡をかけたトナカイ達

待ちわびたクリスマス

～サンタからのプレゼント～



プレゼントを受けとる利用者

が去った後は、いつものクリスマスケーキが振舞われ、「あえり、うめごど」といふものおやつよりじつくりと味わって食べられていた。

12月、リハビリの一環として今年も書道大会が開催された。皆、昔を思い出しながら、明鏡止水のように心を研ぎ澄まして、思い思いの言葉を書き上げた。自分の作品に納得がいかず、「もう1枚だけ、書いても



利用者の皆さんの力作

「明鏡止水」

「いいべか？」と納得がいくまで書こうとする利用者も

書道大会持選



真剣な表情の利用者

いた。審査委員長の湊施設長も賞を決めるのにかなり迷っていた。

利用者も「よいしょ！」



利用者も杵を握って挑戦

12月26日、もりよし荘でもちつき会が開かれ、昔ながらに臼ときねを使ってついた餅をお汁粉にして味わった。施設では一年の最後を締めくくる恒例行事で多くの利用者がホールに集まった。餅つきは初体験の職員に利用者から「きねをぬらさない」と餅がくつつく「もっと腰を入れて」とアドバイスをされる場面も。自ら餅つきする利用者もおり「よいしょ」とかけ声が飛んでいた。

福笑い

今年の正月、通所リハビリテーションでは利用者が手作りの福笑いゲームをおこなった。昔ながらの遊びに利用者は懐かしみ盛り上がった。作品は記念に展示した。



表情豊かな作品



手作りの作品

11月14日から3週間にわたり比内養護学校たかのす分校の展示を行った。ペンケースやポーチ、木べら、お菓子器、織り染めのし袋など生徒さんの手作りの作品の数々。丁寧な仕上げりに利用者は手に取り「上手に作るものだな。縫い目もとてもきれいだな。」



展示された作品

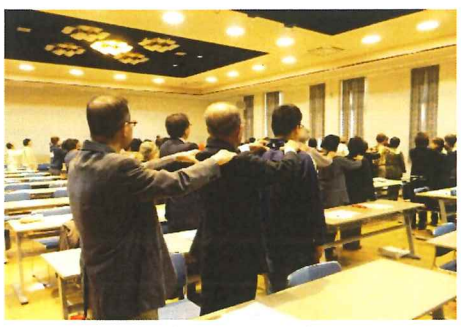
使ってみたいな」などと感心していた。

対人援助技術について

地域福祉講座 福祉レクリエーションから学ぶ

もりよし荘主催の地域福祉講座が10月10日森吉コミュニティセンターにて、開かれ、「対人援助技術について」と題して秋田市の介護老人保健施設ニコニコ苑、マネージャーの桜庭達哉氏が講演した。

会場には地域住民や福祉施設関係者ら約100名が参加



肩をもみあう受講者

励まし勇気づける方法を、時折現場での経験を混ぜながらユーモアたっぷりに話し、会場からは笑いがあふれていた。

ボランティア 敬称略

比内養護学校鷹巣分校・播磨加朋・佐々木美樹

寄付・善意 敬称略

生田島智也 栗原保幸 谷地田明夫
中野雪子 成田嘉彦 関邦夫 金春男
JA葬祭センター 北秋田市商工会女性部森吉支部

編集後記

寒さもやわらぎ、ようやく春の訪れを感じるようになってきました。▼三月になると十一日の大震災の記憶が蘇りますが、私は二十年前の三月二十日に東京で発生した地下鉄サリン事件を思い出します。▼当時私は、中学校を卒業し、東京に遊びに行っていました。朝テレビをつけると、その日向かう予定だった場所はサリンにより、地下鉄構内から多くの負傷者が消防隊、救急隊に路上に運び出されていました。▼世界で初めて大都市でサリンによるテロが起き、それから二十年経った現在も、世界では様々なテロが発生しています。▼震災で亡くなられた方々もそうですが、こういったテロによって、一瞬にして尊い命を奪われた方々のご冥福を祈り、戦争や、テロが無い、皆が笑顔で暮らせる平和時代がくる事を願います。

(T・N)